

受検番号 (必須)		会場 (いずれか丸で囲む) (必須)	東京・大阪
所属法人名 (任意)		氏名 (必須)	

第〇回公益法人会計検定試験 (2 級) サンプル問題兼解答用紙

【問題 I】 (配点 : 30 点)

<設問 1> (配点 : 20 点)

次の《資料 1》は、公益法人会計基準注解 13 から抜粋したものである。これについて、以下の問に答えなさい。

《資料 1》

法人が国又は地方公共団体等から補助金等を受け入れた場合、(中略) 受取補助金等として に記載し、補助金等の目的たる が行われるのに応じて当該金額を から に振り替えるものとする。

(1) 空欄 ~ に当てはまる適切な語句を答えなさい。(配点 : 各 3 点)

①

②

③

④

(2) 下線部のような会計処理を行う理由を、簡潔に説明しなさい。(配点 : 8 点)

(試験終了後、受検票・問題用紙 (及びメモ用紙) はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。)
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。

受検番号（必須）	
会場（必須） （いずれか丸で囲む）	東京・大阪
氏名（必須）	

<設問2>（配点：10点）

次の《資料2》は、公益法人会計基準第2の3「資産の貸借対照表価額」の（6）から抜粋したものである。これについて、以下の間に答えなさい。

《資料2》

資産の時価が著しく下落したとき^(a)は、回復の見込みがあると認められる場合を除き、時価^(b)をもって貸借対照表価額としなければならない。

（1）下線（a）の「資産の時価が著しく下落したとき」とは具体的にどのような場合をいうか、答えなさい。

（配点：3点）

（2）下線（b）の「時価」とは、原則としてどのようなものをいうか、答えなさい。（配点：3点）

（3）下線（b）の「時価」については、例外として使用価値を用いることが認められている。使用価値を用いることが認められるのはどのような場合か、答えなさい。（配点：4点）

（試験終了後、受検票・問題用紙（及びメモ用紙）はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。）
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。

受検番号（必須）	
会場（必須） （いずれか丸で囲む）	東京・大阪
氏名（必須）	

【問題Ⅱ】（配点：各5点、計30点）

下記の各取引についての仕訳を以下に示しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

〔勘定科目〕

現金	普通預金	定期預金
仮払消費税	建物	什器備品
特定資産—記念事業積立金	未払金	仮受消費税
減価償却累計額	退職給付引当金	修繕引当金
受取国庫補助金（指定）	受取寄付金（指定）	一般正味財産への振替額（指定）
受取国庫補助金（一般）	固定資産売却益	給料手当
旅費交通費	消耗品費	修繕費
租税公課	減価償却費	退職給付費用
固定資産売却損		

- *（指定）は指定正味財産増減計算の部に計上する科目
（一般）は一般正味財産増減計算の部に計上する科目

- (1) 期末に備品（期首の帳簿価額 320,000 円、耐用年数 5 年、残存価額は取得原価の 10%、定額法、すでに 2 年分償却済み）を下取りさせて、新しい備品を 700,000 円で購入した。なお、旧備品の下取り価額は 200,000 円であり、購入価額との差額は翌月末に支払うことにした。従来、減価償却の記帳は間接法を採用している。
- (2) ① 次年度の事業費等に充当する目的で総務省から 5,000,000 円の補助金が普通預金に入金された。
- ② 当年度において、その補助事業を実施し、当年度末までに受け入れていた補助金の全額を現金で支出した。支出の内訳は給料手当 3,500,000 円、旅費交通費 1,000,000 円、消耗品費 500,000 円であった。
- (3) 出版事業を行っており、出版事業に係る什器備品を 300,000 円で購入し、消費税 24,000 円とともに代金は現金で支払った。なお、消費税の会計処理は税抜き方式によっている（消費税率は 8%である）。
- (4) 建物の定期修繕および改良を行い、代金 700,000 円は来月末に支払うこととした。代金のうち 500,000 円は耐用年数を延長させるための改良分であり、残りは定期的な修繕のための費用であった。なお、定期的な修繕のために修繕引当金 100,000 円が設定されている。
- (5) 記念事業を実施するための資金として、200,000 円の寄付を現金で受取り、定期預金とし特定資産に区分した。

（試験終了後、受検票・問題用紙（及びメモ用紙）はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。）
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。

受検番号（必須）	
会場（必須） (いずれか丸で囲む)	東京・大阪
氏名（必須）	

	借	方	金	額	貸	方	金	額
(1)								
(2) ①								
(2) ②								
(3)								
(4)								
(5)								

(試験終了後、受検票・問題用紙（及びメモ用紙）はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。)
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。

受検番号（必須）	
会場（必須） （いずれか丸で囲む）	東京・大阪
氏名（必須）	

【問題Ⅲ】（配点：各4点、合計40点）

次の資料に基づいて、2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）の決算にあたって作成される6頁の精算表を、精算表の該当する欄に金額を記入し完成させなさい。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、勘定科目欄の（ ）には適切な科目を示す語句を記入しなさい。

〔資料〕 決算整理その他の事項

- 2017年10月1日に、満期まで保有することを条件に新規発行国債を寄付により受け入れ、指定正味財産に区分される基本財産とした。国債の額面総額は600、受贈価額は取得価額相当額の560であり、償還期間は10年である。国債利息は法人の事業の財源に充てる指定も受けている。額面との差額は金利の調整と認められるので、決算にあたり償却原価法（定額法）を適用する。
- 有形固定資産のうちの建物について当期末で計上する減価償却費は11である。備品の期末有高170のうち、100は用途が制約された形で寄付された特殊備品であり、指定正味財産に区分して特定資産としている。これについては、減価償却費は耐用年数10年、残存価額は取得原価の10%として、定額法によって計算している。また備品の期末有高のうち70は法人が取得したものであり、当期末で計上する減価償却費は6である。
- 建物減価償却費と備品減価償却費については、決算においてその計上額と同額の現金を預け入れて特定資産としている。
- 会費について、次年度会費10を前受けしているが、今年度会費20は未収となっている。
- 長期借入金に対する利息は、毎年12月1日に1年分15を支払っている。決算にあたり、未経過分を計上する。
（一般）は一般正味財産増減の部を構成する科目
（指定）は指定正味財産増減の部を構成する科目

（試験終了後、受検票・問題用紙（及びメモ用紙）はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。）
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。

受検番号(必須)	
会場(必須) (いずれか丸で囲む)	東京・大阪
氏名(必須)	

精算表
2018年3月31日

(単位:千円)

勘定科目	残高試算表		整理記入		正味財産増減計算書				貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	一般正味財産増減		指定正味財産増減		借方	貸方
					借方	貸方	借方	貸方		
現金	292									
前払金	20								20	
土地	3,000								3,000	
投資有価証券	560									
備品減価償却引当資産	18									
建物減価償却引当資産	11									
建物	600								600	
備品	170								170	
未払金		20								20
預り金		12								12
長期借入金		500								500
備品減価償却累計額		15								
建物減価償却累計額		11		11						22
受贈土地(指定正味財産)		3,000								3,000
受贈備品(指定正味財産)		100								100
一般正味財産		960								960
基本財産受取利息(一般)		36				36				
受取会費		630								
備品売却益		23				23				
投資有価証券受贈益		560						560		
事業諸経費	300				300					
旅費交通費	160				160					
給料	130				130					
支払利息	15									
雑損失	2				2					
建物火災損失	589				589					
	5,867	5,867								
()会費										10
()会費										
()利息										
建物減価償却費			11		11					
備品減価償却費										
備品受贈益(一般)										
一般正味財産への振替額										
基本財産受取利息(指定)										
当期一般正味財産減少額										
当期指定正味財産増加額										
			103	103	1,212	1,212	562	562	5,207	5,207

(試験終了後、受検票・問題用紙(及びメモ用紙)はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。)
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。

受検番号（必須）	
会場（必須） (いずれか丸で囲む)	東京・大阪
氏名（必須）	

[メモ用紙]

(試験終了後、受検票・問題用紙（及びメモ用紙）はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。)
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。

受検番号（必須）	
会場（必須） (いずれか丸で囲む)	東京・大阪
氏名（必須）	

[メモ用紙]

(試験終了後、受検票・問題用紙（及びメモ用紙）はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。)
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。

受検番号（必須）	
会場（必須） （いずれか丸で囲む）	東京・大阪
氏名（必須）	

[メモ用紙]

（試験終了後、受検票・問題用紙（及びメモ用紙）はお持ち帰りください。解答用紙は机の上に裏面にして置いてお帰り下さい。）
※実際の本試験においては、問題用紙・解答用紙は分離しています。予めご了承ください。